

ミカンハモグリガの越冬について

山 本 栄 一  
(宮 崎 県 総 合 農 業 試 験 場)

YAMAMOTO, E.

On the Overwintering of the Citrus Leaf Miner

ミカン幼樹の発育を著しく阻害するミカンハモグリガの生態については、不詳な点が多く省力防除上の大きな隘路となつているが、その越冬について、成虫態での越冬を確認したので報告する。

1. 越冬環境

場内の東南向き傾斜地で、下部階段畑は雑柑、温州ミカンなどの成樹があり、また、中腹は急傾斜のため一部に温州ミカンの幼樹が若干あり、上部（下部平地よりの高さ20~30m）3段の階段畑には、樹令15年生の温州ミカンが10本あまり植栽された圃場がある。この10本あまりの温州ミカンで、1965年11月下旬~1966年1月中旬にかけての10日ごとのピーティングに、ミカンハモグリガの成虫が毎回のように採集された。

この位置を気象的にみると、東南向き傾斜地であるために、冬季の気節風の影響は比較的少なく、また、各段畑ごとに杉の防風樹（樹高4m、一部欠株）があるので、日照時間は少なく、昼夜の温度較差も下方の平地ほどではないものと思われる。なお、これらの温州ミカンは、過去5年間、全く病害虫の防除を行っていないため、すでに欠株を生じ、幼樹の補植もみられるが、幼樹でのミカンハモグリガの成虫発見はまれであつた。越冬成虫の寄生量は、3階段畑のなかでも最上段の樹に多い傾向があつた。

一方、このような環境を1~2月に一般慣行園で探し、数ヶ所のミカン園で木虫の成虫を少数ながら確認した。

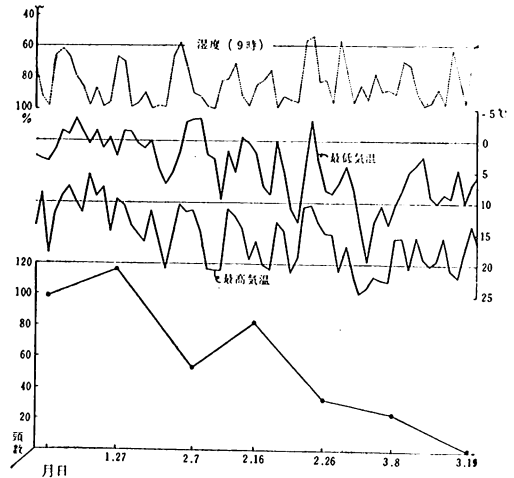
2. 越冬成虫の消長

越冬成虫はミカン樹内の葉裏に1頭、稀に2頭づつ静止しているのが普通である。1966年1月16日（小雨）には、前記防風樹の杉枝（緑枝の部分で雨の影響のない位置）で2頭発見したが、この成虫は、翌17日と20日にそれぞれいなくなつた。

前記無防除の温州ミカンでの越冬成虫の消長を、1966年1月17日より、おおよそ10日ごとに調査した。調査樹数は18本であるが、このなかには幼樹などで調

査期間中に成虫をみいだせなかつた樹が7樹あつた。調査方法は、樹の内外より肉眼で発見した部位を記録した。

第1図 越冬ミカンハモグリガの消長と気象（11樹の合計虫数）



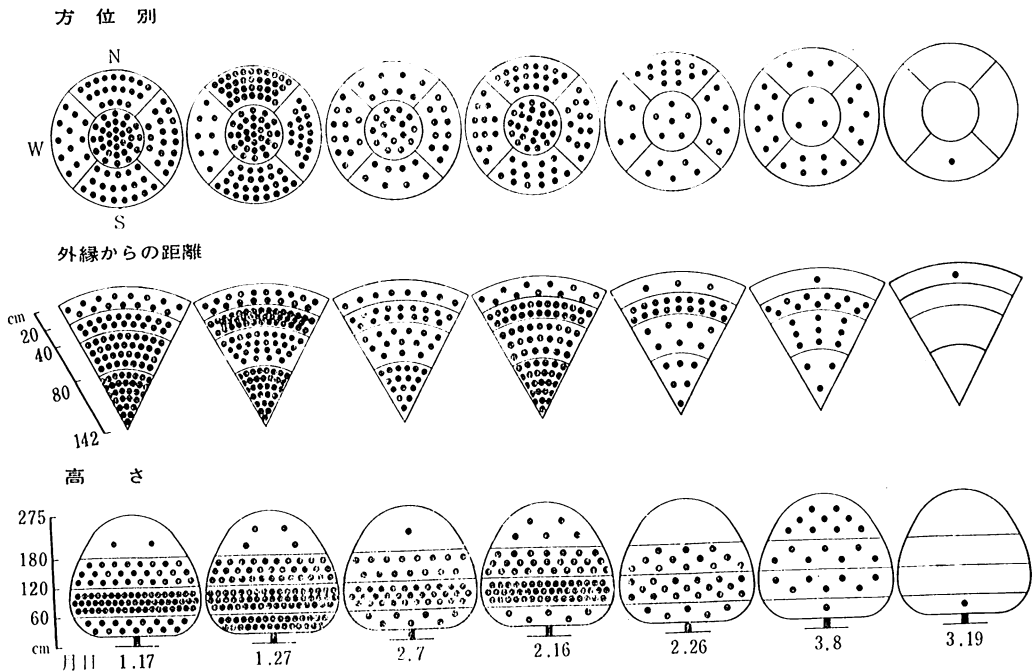
調査期間中の気象については（第1図）、湿度は、杉の防風樹の影響もあり、9時の観測結果では全般に高かつた。気温は、1月下旬が低温度に経過し、最低気温はしばしば零度以下となつたが、2月には最高気温が20度以上の日もみられるようになり、3月では、最低気温が10度前後、最高気温20度前後の日が多くなつた。

このような気象環境のなかで、越冬成虫の密度は徐々に低下し、3月19日の調査では、わずか1頭しか発見できなかった。

樹内での成虫の越冬部位については（第2図）、葉の繁茂度との関係もあろうが、方位別には1月17日~2月16日では、中心部、北、南部の部位に多い傾向があり、2月26日以降は中心部に少なくなつている。

外縁から越冬部位までの距離では、外縁より20cm~中心部に多いが、2月16日までの分布型と2月26日以降の分布型が少し異なり、後者では中心部に少なく

第2図 ミカンハモグリカの樹内越冬部位 (11樹の合計値)



なっている。

高さについては、180cm以内に大部分の虫がみられるが、特に2月16日までは60~120cmの部位に多く、2月26日以降の分布と多少異っている。

このような2月下旬以降の分布の相違は、越冬後の活動期にはいつたものと考えられる。すなわち、2月下旬~3月上旬に、予め発芽させた温州の新梢を与えたところ、産卵し発育した。また、圃場においては、越冬場所より50m~100m地点の比較的発芽の早いトロビタオレンジで、3月26日に、150m以内の温州ミカンで、4月2日に、それぞれ発芽間もない新梢に第1世代幼虫の被害を認めたが、特に、トロビタオレンジ

注。黒点はミカンハモグリカ成虫数をしめす。

では3月26日以前から被害を受けていたようで、その被害は著しかった。

以上のようなことから、越冬後の活動は比較的早期に開始されるようである。

#### むすび

冬季における気象の変化が比較的少ないと思われる傾斜地階段畑の温州ミカン樹で、ミカンハモグリカの成虫態での越冬を確認し得た。越冬成虫は、春暖かくなるとともに越冬場所を離れ、柑橘類の発芽始めと時を同じくして産卵行動を開始するようであるが、越冬後の分散、加害については今後更に検討したい。